

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25117

共に生きる平和な世界を創ろう
～戦乱からの回復をめざしている東ティモール



開催日：平成25年11月16日(土)
平成25年11月17日(日)

実施機関：公立大学法人山梨県立大学
(実施場所) (池田キャンパス)

実施代表者：文珠 紀久野
(所属・職名) (看護学部・教授)

受講生：中学生 4名
高校生 27名

関連 URL：

【実施内容】

＜プログラムの工夫点・留意点＞

1. 参加者には、初めて知る東ティモールであることを踏まえ、地理上の位置、歴史、産業の様子が分かるようにパワーポイントを使用し、できるだけ多くの写真で紹介するように工夫した。
また、参加者の興味・関心を引くように、クイズ形式を取り入れその解答は東ティモールからの留学生から伝えてもらうように工夫した。
2. 会場となった教室に、これまでの研究の様子が分かる写真を展示した。また、東ティモールの人々が生産した「生のコーヒー豆」、「ハーブティ」、「天然の塩」、「ピーナツ」、「タイス(布)」、「バナナや棕櫚の葉で作ったかごなど」を展示し、東ティモールを体験的に感じられるように工夫した。(写真③,写真④)
3. スカイプを使い、東ティモールの中高生と交流できるよう工夫した。
4. 現地の中高生と交流するための言語(Tetun語)を、現地語に堪能な亀山恵理子がTetun語講座を実施した。また、中高生が興味を持てるようなTetun語のテキストを制作した。
5. 日本に留学中の東ティモール人をゲストとして迎え、直接東ティモールの現状を聴く機会を設けた。
さらに、日本から東ティモールの大学に留学し「タイス」の調査研究をしている大学3年生にもゲストとして参加してもらい、「タイス」を通して見えてくる東ティモールを楽しく、わかりやすく説明してもらった。また、海外留学の意義についても伝えてもらう機会をもった。
6. 研究で使用している「箱庭」をセッティングし、「箱庭療法」を体験できるように3人ずつで合同箱庭制作を実施した。(写真①)
7. 中学生、高校生が相互に話し合う事ができるよう、最初に「平和を創る」ことに関してポストイットを使って自分の考えを書きだし、それをもとにしながら意見交換を行った。また、大学生がファシリテートしたことで、活発で積極的な話し合いができた。(写真②)



写真①



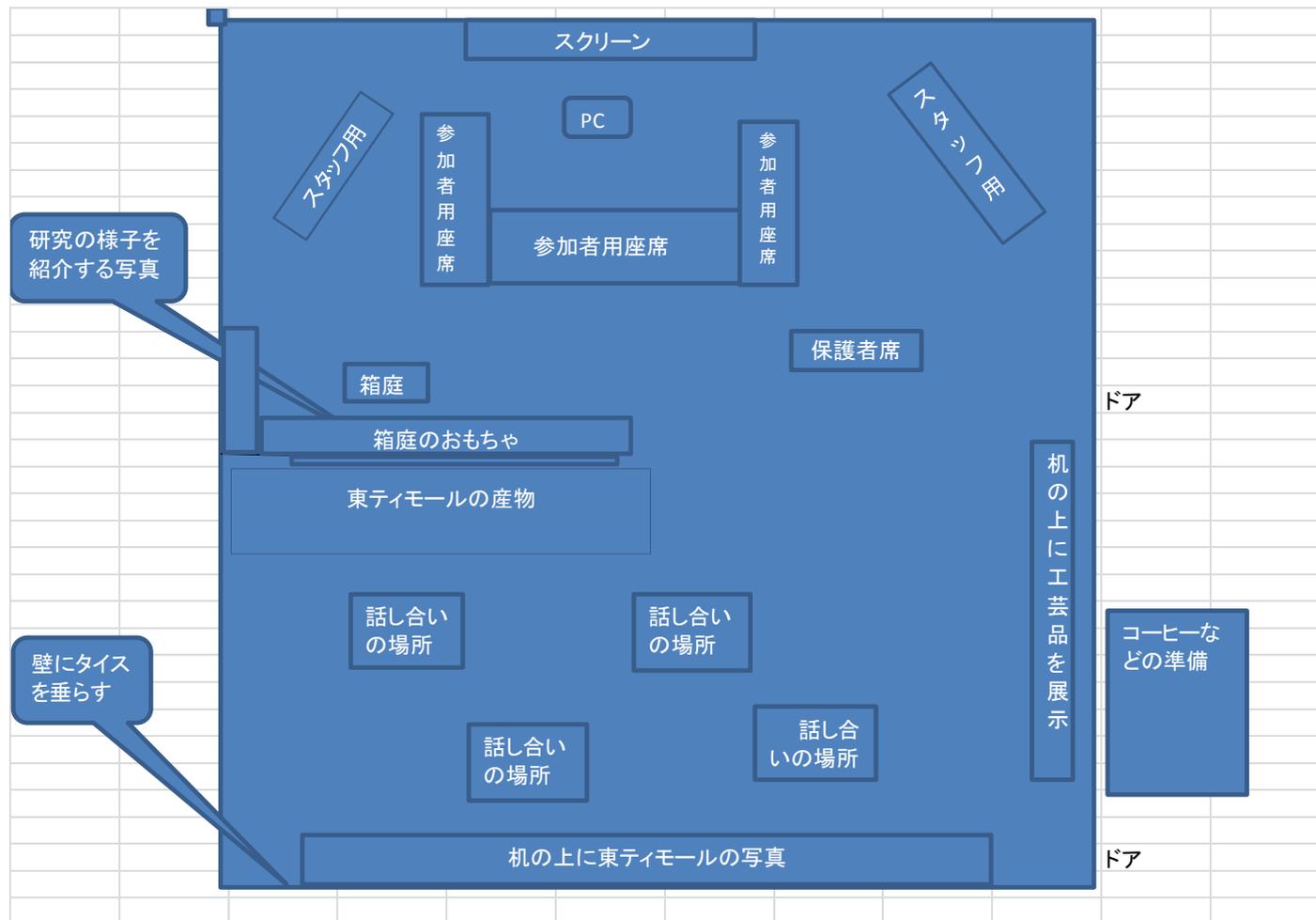
写真②

<当日のスケジュール>

1日目・2日目とも同じスケジュール

- 9:30~10:00 JR甲府駅からバスにて大学へ
- 10:00~10:30 受付
- 10:30~10:45 オリエンテーション(科研費の説明、スケジュールの説明、スタッフの紹介等)
- 10:45~11:05 東ティモールの地理、気候、産業等をクイズ形式で提示
- 11:05~11:20 (講義)東ティモールの歴史を写真を使用して説明
- 11:30~12:00 (講義)東ティモールからの留学生から今の東ティモールの現状の説明。日本から東ティモールに留学している大学生から「タイス」を通して見える東ティモールを説明。
- 12:00~12:30 (演習)Tetun語入門講座
- 12:30~13:30 クッキータイム(昼食と東ティモールコーヒー)
- 13:30~14:00 (演習)調査で使用している統合型HTPを描く
- 14:10~15:00 (演習と講義)箱庭制作実施後、「戦乱によって生じる心理・精神的問題」について講義
- 15:00~15:40 東ティモールの中高生とスカイプによる交流
- 15:50~16:30 小グループに分かれてディスカッション
- 16:30~16:50 「平和創造未来博士号」の授与、記念撮影、アンケート記入
- 16:50~17:00 閉会
- 17:00~17:30 大学からバスにてJR甲府駅へ

<実施の様子>



写真③



写真④

<事務局との協力体制>

1. 科研費担当の事務職員が、委託費の管理・物品購入・支出報告書の確認を行った。
2. 科研費担当事務職員が、日本学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・訂正を行った。
3. 学生のアルバイトへの対応、教室準備、スカイプの試行を実施した。

<広報活動>

1. 県教育委員会、各市町村教育委員会を通じて、県内の中学校への広報依頼を行った。
2. 実施担当者が県内中学に直接出向き、本事業の説明と共に広報活動を実施した。
3. 大学HPに本事業のお知らせを載せた。
4. 本学理事の協力を得て、高校生にも広報を行った。

<安全配慮>

1. 安全確保のため、受講生と学生アルバイトをレクリエーション保険に加入させた。
2. 事前に順路を掲示し、危険な場所には目立つように張り紙に明記した。
3. 東ティモールコーヒーを提供する際、熱湯を使用するので、その場合には看護の教員である伏見と小尾が対応した。

<今後の発展性・課題>

1. 参加者の興味と関心を強くひきつけることができ、平和を創っていくことへの強い動機づけができた。
2. 実施日が県内中学の行事日と重なり、参加者を得ることに苦慮した。事前に中学校の行事予定を確認しておく必要を感じた。
3. 参加対象を高校生に広げたことによって、多くの参加者を得ることができ、海外への関心を強く喚起することができた。このことから、本企画の対象者を高校生に広げることが意味あることと思われる。
4. 東ティモール人が参加したことで、直接東ティモールについて学ぶ機会を得ることができ、海外—特に発展途上国への関心を高めることができた。
5. 東ティモールに留学している大学生と交流する機会を得、海外留学への関心を高めることができた。

【実施分担者】

伏見 正江	看護学部・教授
小尾 栄子	看護学部・助教

【実施協力者】 8 名

【事務担当者】

和田 美和	池田事務室・主任
高野 あさみ	池田事務室・主事